



発行: 西成なるへそ新聞社
ブレーカープロジェクト実行委員会
発行人: 山田 昌
編集: ブレーカープロジェクト実行委員会
山田 昌・村田 仁
図案: 村田 仁

記憶の地図

なるへそ新聞販路拡大

思い出さな

西成なるへそ新聞社(大阪府西成区)は三月末同紙の創刊を記念して、西成区で芸術活動を展開するアーティスト・プロジェクトとの共同企画によって生まれたこの紙創刊の新聞は、地域に住む人々の記憶を頼りに「西成の今昔」を新聞紙上に街の風景として再現して行く。一つ一つの記事は紙面上にある家や区画の様に描かれ、街の変化と同様に古い記事を入れる際、新しい記事を入れる際、取って取り壊し、少しづつ時間をかけて記事が差し変わって行くこととなる。

なるへそ新聞

「西成なるへそ新聞」は新規の記事を広く募集している。忘れる事の出来ない大きな戦争体験ですら、徐々に個人のディテールを失って単なる「歴史のページ」となっていく現在、



この街に住む人々の生きて来た記憶が、いつかいつかの内に消えていく。しきりに出てくる、けさの夕方に、から「忘る」の体験談を聞き出して、思い出したい。同社広報の村田仁は

の寂々としたに、住む人々の記憶が入れ子の様に混在するリアルな都市の姿をこの新聞は表現する。同紙編集長山田昌氏は語る。同紙は一般参加の記者を公募中。参加する記者達の取材の過程そのものが、人から人への歴史の橋渡しともなっていく。

やわらか頭で 発明豆腐
田村豆腐製造所の田村さんは、18歳で若くして独立した際の借入金金利年60%に打ち勝つため、様々なアイデアを練り出してきた。起業五年で一般に知られていない高級メニューに成功。市南部の同業者の店にショールケースを貸出し販売し好評を博した。特許も申請したが、模倣商品も続出。新商品として玉羊かんをヒントにゴムに玉子豆腐を詰め、列車のお供と考え



出すが、日持ちと揚げで指すと汁が飛び散る。問題を解決できず断念。次は具材入りのアルミ鍋をコンロにかけ、だけのすき焼き鍋セットを開発。好評で主力商品となり大阪中のスーパーから見学が押し寄せた。ひもを引く着火して温める湯豆腐セットは、確実な着火に苦戦中だが、発明豆腐屋田村さんのアイデアとやる気はまだまだ尽きない。

新築の 進歩と 調和
外装工事を終えた物件を仰ぎ見て永岡芳弘さん(31)は感慨深げだ。父が興した工務店を兄弟と三人で継いで三年、設計施工を一貫して任された何軒目かの新築住宅。二階建てが軒を連ねる北門通りの中で



もその家の二階壁面は目を引いた。幅五間、8mにわたり石垣のようには傾斜した壁が屋根を支えている。それは先年開催された万国博覧会のパビリオン・ソ連館に想を得たものであった。100mを超す主柱と山嶺のごとくそびえる紅い壁。その威容に万国博覧会を訪れた永岡さんは圧倒された。この迫力を自分の建築でも表現した

い。そんな思いをこの新築住宅に込めた。色は無難な茶系に抑えたため、すぐに連帯を連想する人はいないだろう。実は地主にも発想の源までは伝えていない。それが、今の自分の思いが詰まってる。若弘さんには、この本が後々まで忘れられない物件になりそうなき感動がしていた。

風車
発行 黒田信子
定価 百円

未だ生
猫のイラスト

Kioku 酒蔵
たんす
開館日
11月14・16・21・23・27・28日
12月4・5・11・12・19・21・26日
10時11時5分(鈴木タンス店)

全酒類 食品販売
BEER WINE BRANDY Sake
柳本商店
山王1丁目12番4号

大阪府現代芸術創造事業
ex・pols 2011-2013
Breaker Project
山王・飛田・太子・新世界
地域密着型アートプロジェクト
<http://breakerproject.net>